

News Letter



この愛らしい動物、アマガエル(Hyla japonica Gunther)。初夏の夜の静寂を突き破るように鳴き交わすけたたましい声。これが、この体長3センチほどの小さなカエル達の大合唱とは、とても信じられません。

彼等はこの季節に繁殖期を迎えます。まず多くのオスたちが水田や浅い池などの水場に集まり、メスを求めて鳴き交わします。そこに、卵を産むための準備が十分に整ったメスたちが現われ、種族の維持が繰り返されているのです。

彼等のような小さな動物にも、我々の気づかないところで人間の脅威が及んでいます。

繁殖の場となる水場や、餌となる小さな昆虫と共に生活できる草地や樹林地等の生活環境が、人間の生活の場に置き換えられているというような直接的な脅威だけでなく、ロードキル(道路上で発生する動物の死亡事故)も深刻な脅威となっています。

彼等は主な生活の場となる樹林地と繁殖の場となる水辺の間を移動する必要があります。そこに出現した人間の移動のための道路。これらがぶつかりあってしまうために多くの犠牲者が出ているのです。

このような現象は、大きく



取り上げられることの多い自動車専用道路だけでなく、小さな農道等でも多々見られます。

近年、農地整備等の耕作地の整備と共に農道の直線化と舗装化が進んでいます。それに伴って農作業車以外の利用者が増えた結果、交通量の増加や利用速度の上昇等の事故要因をもたらしている

のです。ここにあげた写真も、水田脇にある幅4mほどの農道での犠牲者です。

私の調査中にも、多いところでは約10m間で40頭以上もの、このような姿となったアマガエルを観察したことがあります。この地点では、樹林地と水田との間に、住宅地とそれに付随する道路ができてしまいました。その

足元の小さな悲鳴

ため繁殖期の移動の際に道路を横断せざるを得ず、多くの被害者が出ているのです。

ここにあげた例は、ごく一部に過ぎません。多くのカエル類が危険を背負った生活を強いられています。例えば、都市部の庭先等にいるヒキガエル類は、常に道路での危険性と隣り合わせに生活しています。また、モリアオガエルは生活の場としてまとまった樹林地を必要とするのですが、森を分断するように整備され続ける道路のために多くの被害をこうむっています。

我々は大きな流れの中にあることは間違いありません。しかし、大きく取り上げられる自動車専用道路のエコロード化等のみではなく、見逃しがちな身近な動物達への脅威についても、常に目を向けていることが必要だと思います。

(本社調査室・北川徹)

